

Ⅱ 内水面総合振興モデル地域調査

Ⅰ 調査目的

内水面漁業をとりまく諸情勢の変化に対応して、水域の現状分析と問題点の把握をおこない、今後の振興方向と対策のあり方を検討するものである。

Ⅱ 調査内容

1. 調査期間

46年7月～9月

2. 調査場所

県内全域の湖沼河川溜池

3. 調査担当者

次長 頼 茂
技師 青 山 禎 夫

4. 調査項目

(1) 現状分析と問題点の把握

(2) 内水面漁業をめぐる諸条件の展望および内水面漁業振興の方向と振興対策のあり方

5. 調査方法

(1) 現状分析と問題点の把握

県内における代表的な3湖沼、8河川、1溜池の現状を現地調査と既存資料によって集約し、漁業生産、従来実施してきた振興対策および流通などの問題点について把握した。

(2) 内水面漁業をめぐる諸条件の展望および内水面漁業振興の方向と振興対策のあり方

現状分析と問題点の把握に立脚して、今後の内水面漁業の振興対策について検討した。

Ⅲ 調査結果

1. 現状分析と問題点の把握

抽出した3湖沼1溜池を含め県内には20あまりの湖沼と350を超える大小の溜池をみることができる。

また、河川は大小あわせて70あまりあり、魚種も冷水性から温水性魚族にいたるまで18科39属58種を数えることができる。

漁業生産は約4,000トンを維持しておりその主要種はシジミ、ワカサギ、ドジョウ、シラウオなどである(第1表)。

従来実施してきた事業には、地域振興対策事業、サケ、マス増養殖等振興事業などが主なものである。

流通状況は比較的生産量が多いシジミ、ワカサギ、シラウオ、ドジョウなどは県外市場に出荷されているが、その他は大部分が県内消費となっている。

2. 内水面漁業をめぐる諸条件の展望および内水面漁業振興の方向と振興対策のあり方

今後の内水面漁業の振興対策を湖沼溜池漁業、養殖業、河川漁業ごとに網羅したが、これらに共通する事項をあげると次のようになる。

- 種苗供給施設の設置
- 流通販売センターの設置
- 内水面漁連および漁協の強化
- 河川環境保全対策の確立
- レクリエーション施設の設置

- 資金の融資助成措置
- 内水面総合水産研究所の設立

Ⅳ 調査の成果および今後の課題

1. 調査成果

県内における内水面漁業の現状分析と問題点の把握、さらに今後の振興対策のあり方について検討することができた。

2. 今後の課題

調査結果で得られた振興対策の具体的実現が課題であるが、とりわけ内水面漁業をめぐる諸情勢の変化に即応した現実的対策が必要である。

（詳細は「内水面総合振興モデル地域調査報告書・青森県・昭和46年度」）